## サプライチェーンにおけるCSR推進

サプライチェーン全体でCSRを推進するために、 TDK に期待すること、評価できる点は何か ---株式会社エナジェティック グリーンの和田征樹氏を お迎えし、意見交換会を実施しました。

株式会社 エナジェティック グリーン 共同代表取締役

#### 和田 征樹 氏

2001年からスポーツ用品やアパレル関連の 企業に在籍し、サプライチェーンにおける人権 課題を中心に活動を行ってきた。2013年6月 より、公益財団法人にて外国人技能実習制度に 関わり、2014年8月より、株式会社エナジェ ティック グリーン、共同代表に就任し、CSRに 関する研究、コンサルティングを行っている。



実施日:2015年5月11日

### ■和田氏の主な意見・提言

# サプライヤーとしての取り組みについて

顧客からの監査要求が高まり続ける中、それに対応する TDK各拠点の負担は今後も増していくことが見込まれます。 職場の人権・労働について、業界を問わず問題となり得るのは 強制労働・児童労働・長時間労働など特定の項目です。これら は先んじて自社で調査結果を取りまとめ、問い合わせがあれ ばいつでも提出できるよう備えておくことも大切でしょう。

現在、各拠点でこれまで受けた外部監査・内部監査の内容、 結果、対策などの履歴を一元化し公開する試みを進められて いるとのこと、これは素晴らしい取り組みです。今後に向けた リスク回避策として有効な上、顧客の要請に応え続けるため にも意義が大きく、ぜひ積極的に推進していただきたいと願 います。

また、海外拠点の設立に備え、確実に実行すべき項目を チェックリスト化し、品質や設備、コストなどとともにCSR観 点を組み込んだ、フィージビリティスタディをしている点は 大変優れています。「現地」「現場」「現物」「現人」という4現 主義に基づく展開の重要性をよく理解された行動をお願いし たいと思います。

## バイヤーとしての取り組みについて

数多くある取引先に対し、SAQ (自己調査票)や監査、改善 指導を一律に行うのは難しく、優先順位を意識した取り組み が求められます。取引先の依存度などを踏まえ、TDKとして のガイドラインを明確にしていくことが欠かせません。

取引先へのCSR監査を行い、監査する人材育成にも注力す る今、その先に何を目指すかが問われる段階を迎えています。

取引先への改善指導では、共に成長していくという視点から、 指導を通じて相手企業の組織強化をサポートする「キャパシ ティ・ビルディング」の考え方が一層重要になります。情報開 示の一環として、どのような項目をいかに指導したか、今後レ ポートにも盛り込んでいけるとよいように思います。

## 川中企業として業界で求められる役割

TDKは川中企業であるからこそ、サプライヤーとバイヤー の二側面からサプライチェーンを見渡すことができます。サ プライチェーンで今何が重視されてきているかという傾向の 把握は常に欠かせません。NPO·NGOとも連携し、人権課題 の最新動向やCSR監査について指導を求めるといったことも 一考されるとよいでしょう。

これまでSAQ策定などで川中企業が強い存在感を示して こられなかったのは残念な点であり、グローバル化が進む中、 川中企業としての考えをしっかりと表明していくことは不可 避となっています。業界連携や業界横断を強化し、国際社会で イニシアティブがとれるような基準づくりに期待します。